

1 - 4 1952年十勝沖地震震源域の最近の地震活動 (1976 - 1979)

Recent Seismic Activity in the Focal Region of 1952 Tokachi-oki Earthquake (1976-1979)

北海道大学理学部
Faculty of Science, Hokkaido University

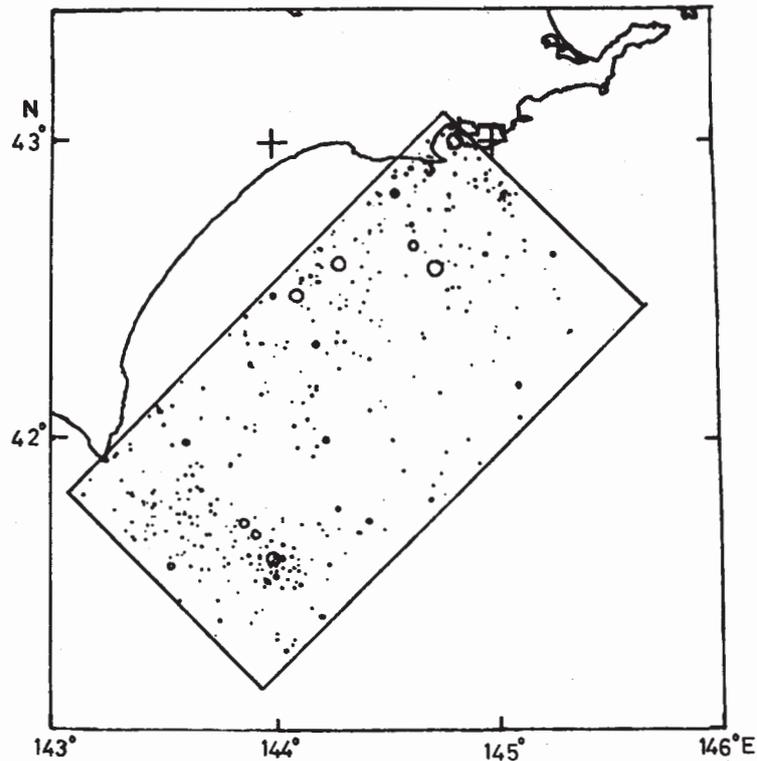
1952年の十勝沖地震以来30年近く経過したので、その震源域における最近の地震活動を調べてみた。北海道大学地震観測センターで得られた資料により、第1図に示す長方形の範囲で深さ100 km以浅の地震をとりあげた。1977年後半より、地震回数でも若干の増加が認められるが、エネルギー放出の割合が明らかに増大していることがわかった。1979年1月のswarmについては既に報告してある¹⁾。巨大地震の再発間隔に比べればはるかに短い期間のデータが示す意味を読みとることはむづかしいが、今後の監視のためにも現状を明らかにしておくことが必要である。

(本谷義信)

参 考 文 献

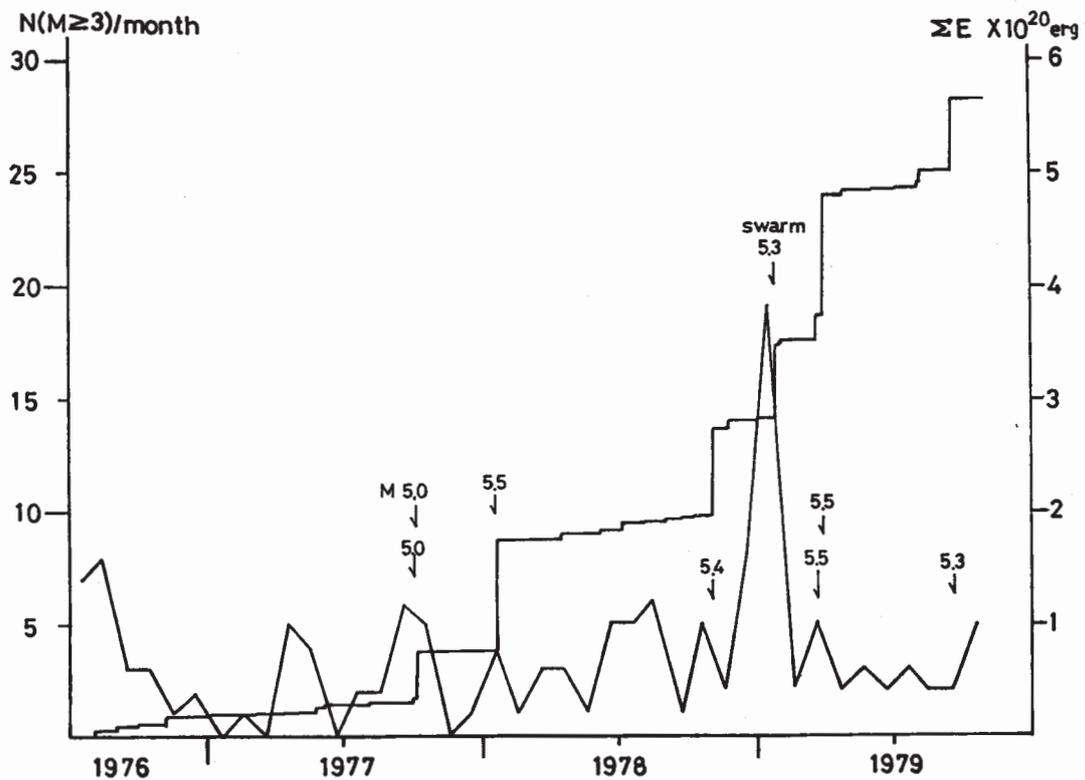
- 1) 北大理学部：北海道周辺の最近の地震活動，連絡会報，22（1979），11 - 13.

付記 この稿の提出直前の、12月14日16時20分頃、第1図の長方形の北端付近でMが5を越える地震が発生し、釧路等で震度Ⅳの中震であった。



第1図 1952年十勝沖地震震源域周辺の最近の震央分布（1976年7月～1979年11月、深さ100 km以浅の地震）震央の大きさは宇津・関の式による余震面積（震源域の大きさと考えている）で示してある。

Fig. 1 Earthquake epicenters in the focal region of 1952 Tokachi-oki Earthquake (1976 - 1979).



第2図 第1図長方形で示す領域に起きた地震の月別発生回数と放出エネルギーの積算

Fig. 2 Monthly frequency of earthquakes and accumulative earthquake energy in the rectangular region shown in Fig. 1.